岡山中央南（旧深柢）小学校跡地活用についての提言

平成１８年２月２３日

岡山中央南（旧深柢）小学校跡地活用懇談会

目　　次

Ⅰ　懇談会の目的及び審議経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

1　目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2　審議経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　岡山中央南地区の位置づけ及び現状と課題・・・・・・・・・・・・・・2

1　中心市街地活性化における岡山中央南地区の位置づけ・・・・・・3
(1) 中心市街地活性化の方向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
(2) 岡山中央南地区の位置づけ ・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2　岡山中央南地区の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
(1) 岡山中央南地区の特性と現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・3
(2) 岡山中央南地区の課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅲ　提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

○岡山中央南地区全体のまちづくりの視点・・・・・・・・・・・・・・・4
1　地域特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
(1) 商業・文化機能を活かす ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
(2) 蓄積された都市インフラを活かす ・・・・・・・・・・・・・・5
2　安全・安心・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
(1) 健康な暮らしを支える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
(2) 災害等に備える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
(3) 高齢者・子どもたち交通弱者にやさしく ・・・・・・・・・・6
3　地域コミュニティ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
(1) 地域コミュニティの維持 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
(2) 地域でのコンセンサス（合意形成）・・・・・・・・・・・・・・6

○終わりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅰ　懇談会の目的及び審議経過

1　目的

市中心部の学校における児童数の大幅な減少による過小規模化に伴い、「子どもたちの教育」を最優先に考え、学校規模と教育条件を適正にするため、「中心部の新しい学校づくり基本計画」に基づき、平成 13 年 4 月、深柢小学校は内山下小学校と統合され、旧深柢小学校の場所に岡山中央南小学校が開校された。さらに、岡山中央南地区の地元関係団体からそれぞれの跡地活用案が提案される中、「中心部の第 2 期の新しい学校づくりの在り方について（最終答申）」に基づき、平成 17 年 3 月、岡山中央南小学校は岡山中央小学校へ統合され、閉校となった。

上記のような状況の中で、この跡地が中心市街地活性化を進めるうえで貴重な空間であるとのまちづくりの観点から、跡地の有効活用を図るため、平成 15 年度第 2 回総合政策審議会において、岡山中央南（旧深柢）小学校跡地活用に係る基本的な方針等について調査審議する目的で当懇談会が設置されることとなった。

なお、当懇談会は審議の透明性と情報公開を図るため、原則公開で審議し、結果は逐次、ホームページ上で公開されることとなった。

2　審議経過

当懇談会の審議経過は以下のとおりである。

第1回懇談会（平成15年11月20日）

「懇談会設置要綱及び懇談会の運営について」

第2回懇談会（平成16年2月2日）

「深柢地区連合町内会からの意見聴取」※

第3回懇談会（平成16年2月6日）

「表町商店街連盟・内山下地区連合町内会からの意見聴取」※

第4回懇談会（平成16年5月27日）

「私立学校関係者（朝日学園）からの意見聴取」※

第5回懇談会（平成16年6月25日）

「病院関係者（川崎病院）からの意見聴取」※

第6回懇談会（平成16年8月3日）

「岡山商工会議所からの意見聴取」※

総合政策審議会・教育行政審議会合同会議（平成17年3月30日）
「6回の懇談会における意見等を踏まえての審議」※
第7回懇談会（平成17年8月2日）
「総合政策審議会･教育行政審議会合同会議における意見等を踏まえての審議」
第8回懇談会（平成18年2月14日）
「提言（案）について」

（※については、資料3参照）

II　岡山中央南地区の位置づけ及び現状と課題

跡地活用にあたっては、中心市街地の再生及び活性化の視点から検討することが必要なことから、まず、跡地をかかえる岡山中央南地区の中心市街地活性化における位置づけを確認し、現状を把握することとする。

なお、跡地活用の検討にあたっては、「夢があり、持続的発展が可能な 21 世紀の岡山市を実現するための中期的な指針」（以下「中期的な指針」という。）、「岡山地域中心市街地活性化基本計画」、「中心市街地の学校跡地活用の観点」に留意することとする。（資料 1）

【中心市街地における岡山中央南地区と跡地の位置】

1　中心市街地活性化における岡山中央南地区の位置づけ

(1) 中心市街地活性化の方向

岡山地域中心市街地活性化基本計画においては、**様々な人が暮らし賑わう生活交流都心**を目指しており、都心人口回復のための住環境整備や、多世代の市民と岡山を訪れる人々との出会いと交流の場としての都心の再生を行っていくこととしている。

特に、急速に少子・高齢化が進む中心市街地においては、高齢者や子どもたちの視点に立った環境が整備されるまちとして、また、公共交通を基本とした環境負荷の少ないまちとして再生していくため、**人と環境にやさしい都心の再生**を目標として施策が進められている。

(2) 岡山中央南地区の位置づけ

中心市街地の再生においては、広域都市圏の商業・業務の中心としての岡山駅周辺エリアと、岡山城・後楽園や表町商店街を中心とした旧城下町エリア（オールドタウン）の、両エリアの資質を活かし、また回遊性を高めることにより、互いに融合させながら新しい魅力を創りあげていくことが鍵となる。

岡山中央南地区と区域をほぼ同じにする旧城下町エリア（オールドタウン）は、これまで歴史的に都市文化の担い手となり、都市の顔としての役割を果たしてきたが、当エリアの再生のためには、商業・文化等の機能の強化を図るとともに、都市生活の魅力を高め、多世代が継続して居住できる環境を整備することが肝要であり、この中で跡地活用の果たす役割は非常に大きい。

2　岡山中央南地区の現状と課題

(1) 岡山中央南地区の特性と現状

岡山中央南地区は、約 400 年前の岡山城下町の形成以来、都市の顔としての歴史性・文化性を持つ地区であり、県下最大の表町商店街を有し、さらに、カルチャーゾーンの文化施設群やバスターミナル、路面電車の公共交通網など、都市インフラが高度に整備され、生活利便性、交通利便性が非常に高い立地である。

岡山中央南地区は、このような歴史性・文化性、都市機能の高度な集積という特性を有するものの、急激な人口減少、少子・高齢化、商業・業務機能のシェア低下など空洞化が進んでおり、中心市街地の中心性・シンボル性の維持や、蓄積された都市インフラの有効活用、さらには地域コミュニティの維持に深刻な問題をもたらしている。（資料 2）

(2) 岡山中央南地区の課題

岡山中央南地区の特性と現状から、以下のような課題が抽出される。

① 定住人口の増加による活力回復及び地域コミュニティの維持
② 高齢者をはじめ多世代が快適に暮らせる住環境の整備
③ 地域特性を生かした商業・文化等の機能強化による賑わいの回復（交流人口の増加）
④ 蓄積された都市インフラと土地の有効活用

III 提言

当懇談会では、跡地が全市民の財産であるという観点に立ち、全市的な課題の解決、岡山市の進むべき方向性を念頭に、岡山中央南地区の位置づけや現状を踏まえたうえで、以下に示す岡山中央南地区全体のまちづくりの視点で跡地活用を行うことを提言する。

○ 岡山中央南地区全体のまちづくりの視点

1 地域特性

交流人口を増加させ、まちの賑わいを回復するには、地域特性を活かしたまちづくりが求められる。

また、跡地活用を契機として、都市機能を再編していくという「種地」の考え方が重要であり、岡山中央南地区の活性化に活かしていくべきである。

(1) 商業・文化機能を活かす

岡山中央南地区が持っている、歴史性・文化性・シンボル性を活かすために、岡山城・後楽園・旭川等の歴史・自然資源、カルチャーゾーンの文化施設群などの文化機能、そして、表町商店街を中心とした商業機能を活かしながら、人々が都市文化の多様性を享受することのできるまちづくりを目指し、賑わいの回復を図ることが求められる。

(2) 蓄積された都市インフラを活かす

岡山中央南地区は、長期間にわたる投資により都市インフラが集積しており、特に、バスターミナル、路面電車、幹線道路など交通インフラが充実している。交通利便性を活かす観点から、広域から多くの人々が利用できる都市機能の充実が求められる。

2　安全・安心

わが国における人口は 2005 年から減少に転じ始め、本格的少子・高齢化社会を迎えた中で、岡山市の「中期的な指針」のまちづくりの基本目標である「安全・安心なまちづくり」は、最も重要な視点のひとつである。そして、人々が「安全・安心」に過ごせる都市空間や都市機能の充実は、まちの価値を高め、定住人口や交流人口の増加をもたらす。

(1) 健康な暮らしを支える

子供や高齢者をはじめ人々が「安心した生活」を送ることのできる都市機能として、医療、高齢者福祉、子育て支援、健康増進機能等の充実が求められる。特に、地域に貢献できる総合病院を残すことが必要であり、それも単なる病院としてではなく、まちづくりの視点から、市民が安心して生活を送れる拠点としての機能が望まれる。このように健康な暮らしを支える各種生活支援サービスの充実は、多世代が快適に暮らすことができる住環境の実現に必要な条件である。

(2) 災害等に備える

災害時に避難できる場所の確保や、緊急医療の対応など防災上の観点からの配慮が必要である。また、防犯上の安心も重要であり、そのためには地域コミュニティの役割が大切となる。

(3) 高齢者・子どもたち交通弱者にやさしく

公共交通を基本とする歩行者の視点に立った交通弱者にやさしいまちづくりが求められており、都心の交通体系の見直しや安心して散策できる歩行者空間の整備、ユニバーサルデザインの導入を進め、「歩ける生活圏」というコンセプトでまちづくりを進めることが重要である。

3　地域コミュニティ

(1) 地域コミュニティの維持

地域コミュニティの維持のためには、地域の人々が集まり交流できる場が必要である。さらに、跡地がかつて学校であったという歴史的経緯を考慮し、地域の生涯学習機能を持たせるなど、様々な地域コミュニティ活動ができる「市民が協働する場」をつくっていくことがこれからの地域の活性化につながる。地域コミュニティの活性化により、地域防災・防犯なども強化される。

(2) 地域でのコンセンサス（合意形成）

地域においても、住民全体を巻き込んで問題意識を共有し、跡地活用についてのコンセンサスを形成することが必要である。そして、地域の人々が大切にし、誇りに思えるような活用が求められる。

○　終わりに

以上のように、岡山中央南地区全体のまちづくりの視点で跡地活用を行うことを提言したが、今後の進め方について、市民や行政等関係者が跡地は全市民の貴重な財産であるという認識を共有し、より多くの市民が納得する具体的活用がなされることを望むものである。

なお、跡地活用方策の検討にあたっては、公共性（受益者の範囲等）、中心市街地活性化への寄与度など直接的・間接的効果及び影響を総合的に勘案するとともに、民間の力を借りて活性化を図ることも考慮されたい。

この跡地活用が、岡山市の発展、中心市街地の活性化につながることを期待する。